

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 3 月 19 日 (2015.3.19)

【公表番号】特表 2012-533958 (P2012-533958A)

【公表日】平成 24 年 12 月 27 日 (2012.12.27)

【年通号数】公開・登録公報 2012-055

【出願番号】特願 2012-521106 (P2012-521106)

【国際特許分類】

H 0 4 W 52/02 (2009.01)

H 0 4 W 84/10 (2009.01)

H 0 4 B 1/44 (2006.01)

【F I】

H 0 4 Q 7/00 4 2 2

H 0 4 Q 7/00 6 2 9

H 0 4 B 1/44

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 27 年 2 月 3 日 (2015.2.3)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 1】

例示的な実施形態において、メッセージデータのコンテンツは、多数のパケットに同様に構成される。アクセスアドレスフィールドの終りまでに、そのアクセスアドレスの検出に基づいて、スレーブ受信機は、メッセージがそれを宛先として処理するものであるか、および該メッセージに応答するかどうかを知ってもよい。メッセージがスレーブ受信機を宛先としていない場合は、受信起動ウィンドウを閉じてもよい。メッセージがスレーブ受信機を宛先としている場合、アクセスアドレス (303) の最後の部分は、プリアンプル (302) の開始の代わりに、受信されたパケットデータの開始として使用することができる。このようにして、スレーブ受信機を宛先とするパケットを受信した時に、Rx 起動時間 (306) の節約を実行できる。1 つ以上の検出されたパラメータは、後述する図 8 および図 12 に示されるプロセスで、最初に図 8、次いで図 12 のプロセスの順に渡されてもよい。